

令和4年度 矢板市議会 議会運営委員会行政視察研修 報告書

1 期日

令和4年8月1日(月)・2日(火)

2 視察地・視察内容

- 1 岩手県奥州市・・・効果的な政策提言について
- 2 宮城県登米市・・・事務事業評価と提言について

3 行程

○8月1日(月)

矢板市役所 → 中尊寺(昼食) → **奥州市議会** → 江刺蔵町視察 → 奥州市内(泊)

○8月2日(火)

奥州市 → **登米市議会** → とよま観光物産センター(昼食) → 道の駅上品の郷
→ 矢板市役所

4 視察参加者 ※敬称略

矢板市議会 議会運営委員会 6名

委員長：佐貫 薫 副委員長：神谷 靖

委員：中里理香、高瀬由子、宮本妙子、中村久信

矢板市議会 2名

議長：今井勝巳 副議長：藤田欽哉

矢板市議会事務局 2名

局長：薄井 勉 主幹：矢板寿江

5 視察先概要

		奥州市	登米市	矢板市
人口・世帯				
	人口	114,644	77,392	31,719
	人口増減率（3年前比）	-3.54%	-4.57%	-4.17%
	自然増減率（ // ）	-2.68%	-2.91%	-2.24%
	社会増減率（ // ）	-0.86%	-1.65%	-1.93%
財政・行政				
	歳出総額	728.0億円	534.7億円	176.0億円
	同・一人当たり	63.5万円	69.1万円	55.5万円
議会				
	議員数	28	26	16
	常任委員会数	4	3	2
	報酬（月額）			
	議長	447,000	491,000	440,000
	副議長	386,000	425,000	355,000
	議員	360,000	398,000	325,000
	政務活動費（月額）	12,000	25,000	20,000
	議会改革ランキング			
	総合	3	49	93
	情報公開	6	244	235
	住民参加	47	27	121
	機能強化	1	90	94
	通年議会	—	導入	導入

6 視察内容・成果

(1) 岩手県奥州市議会

①視察目的

「効果的な政策提言について」

早稲田大学マニフェスト研究所主催による2021年度の全国議会改革度調査で全国総合3位とされている奥州市議会による政策提言の方針・実践手法を、ホームページなどの資料では分からない「思い」を含め、矢板市議会に展開すべく教示いただく。

②ご対応いただいた方々

奥州市議会	議長	菅原 由和 様
同	事務局 議事調査係長	千田 憲彰 様
同	事務局 主任	小野 幸奈 様

③視察内容・成果

岩手県奥州市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所主催による2021年度の全国議会改革度調査で全国総合3位とされている議会である。その調査には情報公開・住民参画・機能強化の3つの部門の指標があり、その指標のうちの1つ、議会の機能強化の部門で全国1位を取られている。なかでも特筆すべきは、政策立案プロセスの緻密な設計と、提言内容の実現の追求についてである。

それを支えるものが「奥州市議会政策立案等に関するガイドライン」である。

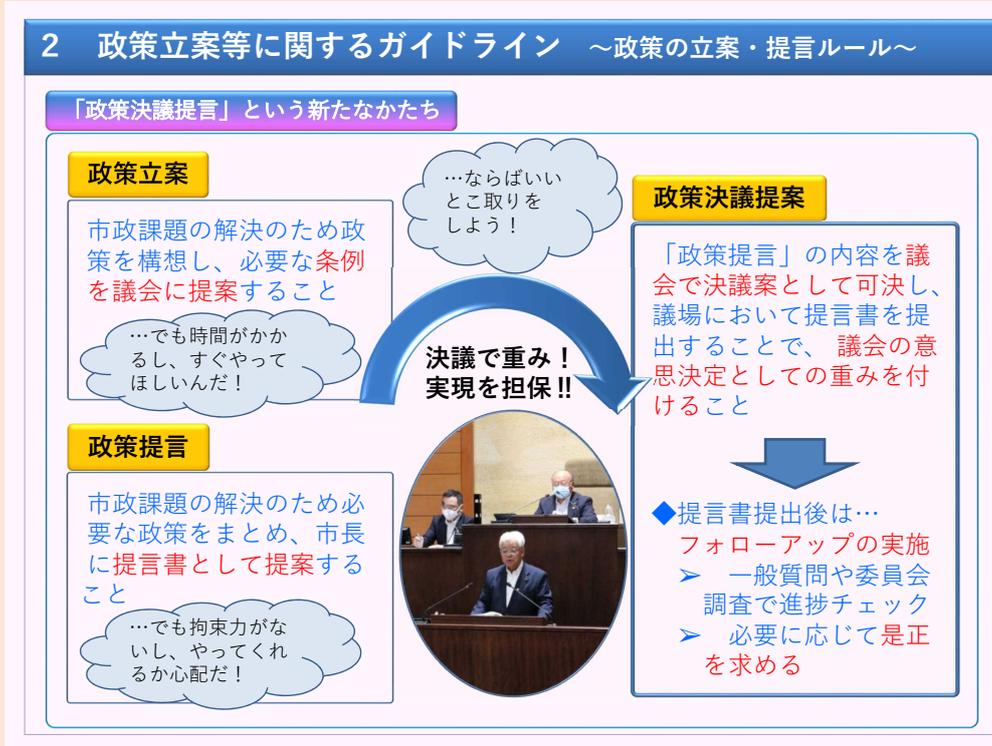
その中から、『第1章 はじめに／1. ガイドライン策定の趣旨』から以下、抜粋して記載する。

奥州市議会基本条例（平成21年奥州市条例第43号。以下「基本条例」という。）第3条では、議員の活動原則の一つとして、「把握した市民の意見、要望等をもとに、政策立案、政策提言等を積極的に行うこと」を掲げ、また、同条例第7条では、市長等との関係として、「議会は、市長等と常に緊張感のある関係を保持し、政策立案、政策提言等を通じて市政の発展に取り組まなければならない。」と定めています。これらのことから、議会及びこれを構成する各議員は、政策立案、政策提言等（以下「政策立案等」という。）に真摯に取り組む必要があります。

（「奥州市議会政策立案等に関するガイドライン」第1章 はじめに／1. ガイドライン策定の趣旨 から抜粋。）

政策立案・政策提言をして終わり、あとは行政に任せる、担当課に任せる、ということではなく、市民の方々を巻き込みながら、先進地調査、現地調査、執行部との協議を経て提言を完成させる。そして、政策提言の内容を議会で決議案として可決し、議場において提言書を提出することで議会の意思決定としての重みを付ける「政策決議提案」という形式を取られている（【資料1】参照）。決議案を可決した後も、その内容が実現されていない場合、実現できていない理由を質し、実現させるためのさまざまな障壁を越える施策を行なわれている。

【資料1】



政策決議提案に至るサイクル（【資料2】参照）、決議案の構成・内容も緻密である（【資料3】参照）。また議会の構成が変わったとしてもその再現性・継続性を担保するために、発議案の必要要件がガイドラインとして明示されており、その手順・要件に沿って、発議案が作られるなど一貫性、統一性を持った議会活動がなされている。結果、令和2年度の施策において、決議案の提言内容の23施策のうち10施策の提言が実現されている。



【資料3】

(参考例1－政策提言書)

「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」に関する政策提言書

(元号) 年 月 奥州市議会〇〇常任委員会

1 検討テーマ

(〇〇〇の対策について、〇〇〇の振興について、〇〇〇の活性化について等)

2 解決すべき課題

※ 調査結果により判明した課題の内容を記述（以下は、項目の例）

- (1) 現状（課題の背景）
- (2) これまでの取組
- (3) 取組に対する評価

3 提言する政策

※ 政策の内容をなるべく詳細に記述（以下は、項目の例）

- (1) 概要
- (2) 目標（ねらい・効果）
- (3) 具体的施策

4 調査及び検討の経過

※ 調査及び検討の経過を時系列で記述（以下は、項目の例）

- (1) 検討テーマ設定の動機
- (2) 所管事務調査の状況
- (3) 先進地視察の状況
- (4) 政策の検討状況
- (5) 意見聴取とその反映

以上の経過により、前項のとおり提言するものである。

5 添付資料

- (1) 〇〇〇〇
- (2) 〇〇〇〇

「議会は政策立案、政策提言等を通じて市政の発展に取り組まなければならない。」

奥州市議会は、奥州市議会基本条例に明示された議会の矜持を、真摯に、緻密に、力強く具現化されている。政策具現化のための一連のプロセスを数多く実践されていることも、議会全体として経験値が高められ、提言水準も上げることができていると推察できる。

矢板市議会も議会として市政発展のための政策立案・提言ができるよう、2021年度からそのプロセス、方法論についての研修を始めた。端緒についたばかりではあるが、その端緒をそれだけで終わらせることないよう、議会発議の政策提言・立案及び、それらが市政発展に結びついているのかのチェックをする全体プロセスの精緻化、さらに継続性を高めるためにも「続けられる仕組みづくり」が必要である。

(2) 宮城県登米市議会

①視察目的

「事務事業評価と提言について」

登米市議会は、全国的にも数少ない事例である「議会による事務事業評価からの政策提言」サイクルを平成30年度から実施されている。と同時に、約2年の間隔でその事務事業評価の目的、方法、指標などを見直され、さらに強化されている。その目的、事務事業評価の方法論、具体的運用法、課題と成果、今後の展望・展開について教示いただき、矢板市議会の政策立案・提言サイクルの運用の一助とする。

②ご対応いただいた方々

登米市議会	議長		関	孝	様
同	議会改革推進会議	委員長	曾根	充敏	様
同	議会改革推進会議	副委員長	永島	順子	様
同	議会改革推進会議	委員	中澤	宏	様
同	議会改革推進会議	委員	熊谷	康信	様
同	議会改革推進会議	委員	佐々木	好博	様
同	議会改革推進会議	委員	鈴木	実	様
同	議会事務局	事務局長	富士原	孝好	様
同	議会事務局	政策・改革係係長	主藤	貴宏	様

②視察内容・成果

宮城県登米市議会は、平成30年度以降、全国的にも数少ない議会による事務事業評価を実施され、政策提言・立案に結び付けられている。その取り組みは、議会基本条例に基づき、執行機関の事務執行を監視・評価し、議会としての議決責任や説明責任を果たし、積極的な政策立案などを行う方針が背景となっている。

事務事業評価は政策的ソフト事業を対象とし、事務事業評価の一連の流れは、

①事業の説明・質疑・委員間討議・委員評価

②委員会としての評価

③全体共有

④決算審査後の討議

⑤政策提言

とされている。

また、各事業について、

①市民ニーズに合っているか

②市が行う必要性があるか

③費用対効果

④目標達成状況

などを6段階で評価し、拡充や継続、改善、廃止の方向性を議会として示されている

(【資料4】参照)。

登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

委員会名	産業建設常任委員会	評価対象事業	ビジネスチャンス支援事業
------	-----------	--------	--------------

◆項目別評価結果…議員(委員)評価の横上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	2
	2 ニーズが高い	
	3 どちらかといえばニーズが高い	
	4 どちらかといえばニーズが低い	
	5 ニーズが低い	
	6 ニーズがない	
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	1
	2 必要性が高い	
	3 どちらかといえば必要性が高い	
	4 どちらかといえば必要性が低い	
	5 必要性が低い	
	6 必要性がない	
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	1
	2 効果的である	
	3 どちらかといえば効果的である	
	4 どちらかといえば効果的でない	
	5 効果が少ない	
	6 効果がない	
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	5
	2 成果がある	
	3 どちらかといえば成果がある	
	4 どちらかといえば成果がない	
	5 成果が少ない	
	6 成果がない	

※委員の評価数は、委員評価による数そのまま転記したもの。

◆委員会項目別評価

評価基準	評価点	評価コメント(100字以内)
1 きわめてニーズが高い	25点	地域経済の活性化のために、市民のニーズは有る。市内で起業や業務拡大を考える多くの企業が活用できる。
2 ニーズが高い	20点	
3 どちらかといえばニーズが高い	15点	
4 どちらかといえばニーズが低い	10点	
5 ニーズが低い	5点	
6 ニーズがない	0点	
1 きわめて必要性が高い	25点	毎戸にチラシ配布や市ホームページで広く周知を行っている。
2 必要性が高い	20点	
3 どちらかといえば必要性が高い	15点	
4 どちらかといえば必要性が低い	10点	
5 必要性が低い	5点	
6 必要性がない	0点	
1 きわめて効果的である	25点	この補助金を使った事業により、売り上げアップがベストであるが、上がっていないのが現実。商品開発の成果が見えない。
2 効果的である	20点	
3 どちらかといえば効果的である	15点	
4 どちらかといえば効果的でない	10点	
5 効果が少ない	5点	
6 効果がない	0点	
1 きわめて成果がある	25点	達成すべき目標「事業実施3年目、5%以上売り上げ向上。」3年後の売り上げアップ。わかりにくい。
2 成果がある	20点	
3 どちらかといえば成果がある	15点	
4 どちらかといえば成果がない	10点	
5 成果が少ない	5点	
6 成果がない	0点	

委員会項目別評価点数 60 一総合評価で区分

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

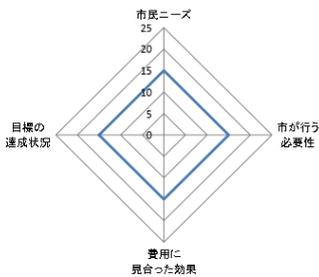
◆総合評価…議員(委員)評価の横上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	1
B 良好である	
C 概ね適正である	
D 問題がある	
E かなり問題がある	
F 不適正である	

◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	C	ビジネスチャンス支援事業は、登米市で起業したい人や事業拡大したい事業者の背中を押す大きな力となっている。様々な業種・多種多様な取り組みが対象となるため、チャンスが多い反面、支援基準が不明確になっている感がある。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

【参考】 委員会評価レーダーチャート



◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)、500字以内
拡充	起業や事業拡大を後押しする事業で支援を受けた事業者から感謝され、市の支援が活きていると感じた。市の関わりとして、補助金を出して終わりではない。2年目3年目の支援に対する要望もあるので、ビジネスサポートセンターを中心に、経営や事業継続に関する支援の検討と体制整備を行うべきである。また、この事業での起業や事業拡大の取り組みが分かるように、市民に向け情報発信してはどうか。起業・業務拡大したい人と行政だけが地域経済を活性化するのはなく、地域や市民と一緒に、ビジネスの新しい芽を見守り育てる視点も必要ではないか。
継続	
改善	
民間・市民協働	
縮小・廃止	
完了	

令和元年度には事務事業評価の手法の見直しもなされ、

①委員会の裁量で調査

3つの常任委員会ごとに1事業以上を選定し、下記の2本立てでスケジュールを設定。

- (1) 短期型 翌年度の予算編成に間に合うよう政策提言をまとめる
- (2) 長期型 常任委員会任期内（2年間）で調査し、政策提言をまとめる。

②評価の流れに「調査」を追加

評価までに多角的な調査を実施。現地調査や関係団体との意見交換を行うなど、対象事業について、より深掘りする機会を設けられている。

③評価点の配点を見直し

上記3項目について、施策の練り上げをされた。

さらに、令和3年度には、2度目の見直しとして、

①事務事業評価の目的の再設定

②事務事業評価の選定理由の明確化

③事務事業評価のスケジュールの見直し

を実施され、「予算に反映させる」、「毎年提言しなければならない」など、スケジュールや提言ありきではなく、長期的視点に立った取り組みをされている。

矢板市議会も通年議会の制度のもとで委員会活動を活性化・活発化させ、政策立案・提言サイクルを回し、政策立案・提言内容の実現を図り、より良い矢板市づくりをすることが目的である。政策立案・提言することが目的化しないよう留意することが肝要である。



2022
議会運営委員会視察
資料集

3. 3市の地理



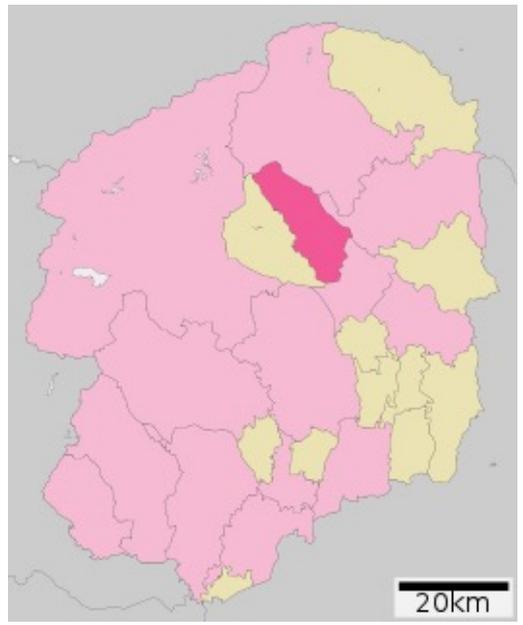
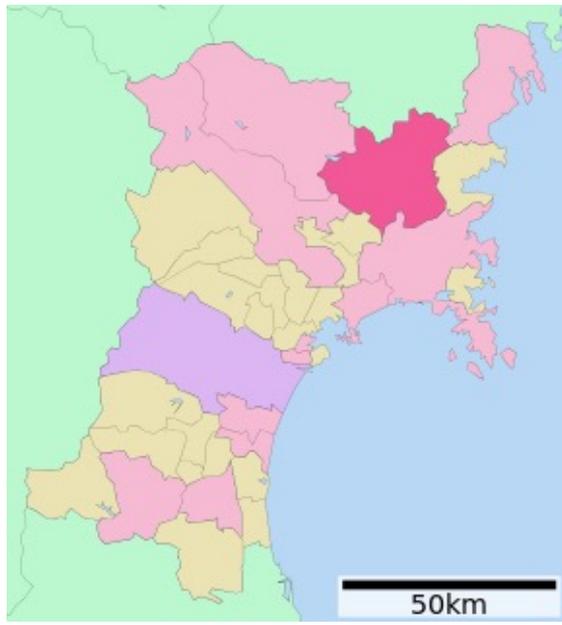
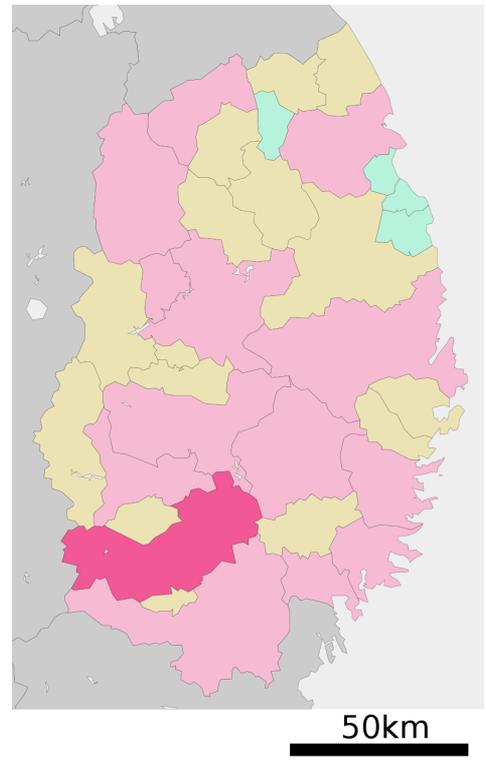
奥州市



登米市



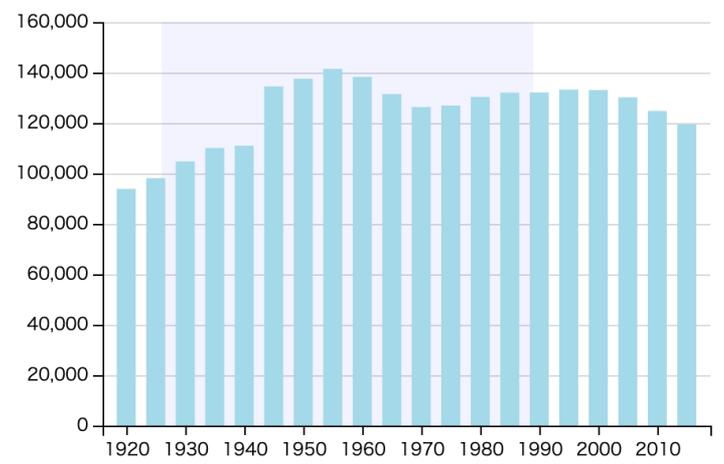
矢板市



4. 3市の人口動向



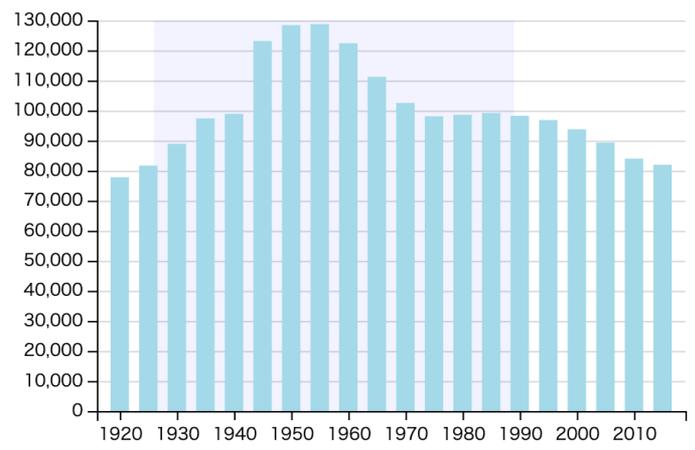
奥州市



奥州市（に相当する地域）の人口の推移



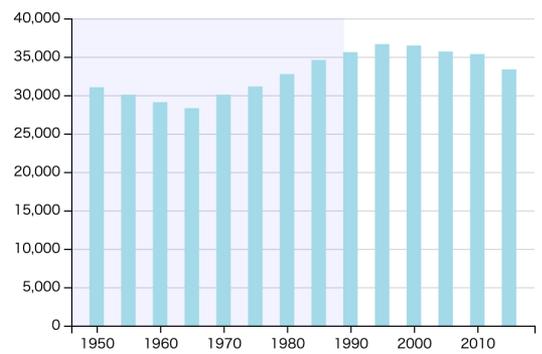
登米市



登米市（に相当する地域）の人口の推移



矢板市



矢板市（に相当する地域）の人口の推移



奥州市議会

政策決議案としての提言

奥州市議会

ワールドカフェ 



① 市民の意見等を把握

常任委員会



② 課題掘起しとテーマの決定

先進地視察



④ 先進自治体を調査

所管事務調査



③ 市の現状を調査

奥州市議会

常任委員会



⑤ 市との協議と
市民意見調整

全員協議会



⑥ 議会の総意で
発議案の提出

フォローアップ



⑧ 一般質問や委員会
の審査で是正要求

政策決議提案



⑦ 発議案の可決
と提言書提出

政策決議提案による提言書 ～令和元年度に決議した3つの提言～

公共交通施策に関する政策提言書

【提言項目】

- ◆提言1 都市計画等と一体となった総合的な公共交通ネットワークを構築すること。
- ◆提言2 地域拠点と都市拠点を結ぶ拠点間交通を構築すること。
- ◆提言3 地域の特性や実態、利用者ニーズに応じた地区内交通を構築すること。

【所管委員会】 総務常任委員会

交通安全対策に関する政策提言書

【提言項目】

- ◆提言1 高齢ドライバーへの運転技術講習、自動車安全技術の導入を推進すること。
- ◆提言2 横断歩道での歩行者保護、幼児活動エリアの道路安全に対策を講じること。
- ◆提言3 交通安全意識の向上、ドライバーの法令遵守の環境整備等に取り組むこと。

【所管委員会】 建設環境常任委員会

農業振興及び地域6次産業化の推進に関する政策提言書

【提言項目】

- ◆提言1 継続性確保のための農業振興ビジョンの策定を義務化すること。
- ◆提言2 地域6次産業化に向けた実効性ある推進計画を策定すること。
- ◆提言3 地域6次産業化推進のため支援環境の整備・充実を図ること。

【所管委員会】 産業経済常任委員会

交通安全対策

高齢ドライバー講習が実現しました！

令和2年度の施策において、23施策中10施策の提言が実施されました。

【具体的な成果の例】

- ◆ 高齢ドライバー運転技術講習会の実施（令和2年9月～）

全国的に高齢ドライバーの誤操作による自動車事故が多発していることを受け、市内高齢者を対象に、自動車学校の協力で運転技術と危険予測の講習会を実施しました。新型コロナウイルス対策のため人数制限はありましたが、受講者の感想も好評で、今後他の自動車学校とも協力し、事業規模が拡大される予定です。



座学講習で危険予測などを学ぶ



高齢者目線で安全運転技術を指導



登米市議会

事務事業評価・委員会活動から提言へ

-改革方針-

我々議会の最高規範である議会基本条例に掲げる理念は崇高で、議員・議会がその取り組みをどのように実践させていくかが大切である。

議会基本条例を制定以来、今回初めて全議員で議会基本条例を振り返った。個人評価アンケート結果でも明らかなように、政策形成や議員間討議などの『話し合っ決めて』が、議会の中で十分に行われていない現状であることが分かった。議員個人の意見のままとせず、多様な対話の機会を得ながら、解決に向け執行部の理解や取り組みを引き出す深い議論が必要である。

市民に信頼される議会として進むべきは、政策グループをしっかりと組み立てるということだ。会派では調査や議論を行い、常任委員会において、政策を作り上げ『政策形成サイクル』を築き上げ、それを実際に動かしていくことが肝要である。議会改革は、まだまだ道半ばである。市民と議会の情報共有も課題の一つだ。市民への伝達の質を向上させるのも議会の責務である。この課題に正面から立ち向かう姿勢が必要である。

今期の議会改革推進会議は、全議員で取り組める活動を目指し、会派での丁寧な話し合いを重ねて来た。議会基本条例に基づき整えられてきた議会の仕組みが、個々の機能の部分最適で終わることなく、議会全体で最適化させるべく、チーム登米市議会としての取り組みをさらに進めていきたい。



「登米市議会改革推進会議調査報告書」
(令和2年12月24日)より抜粋



議会改革とは、

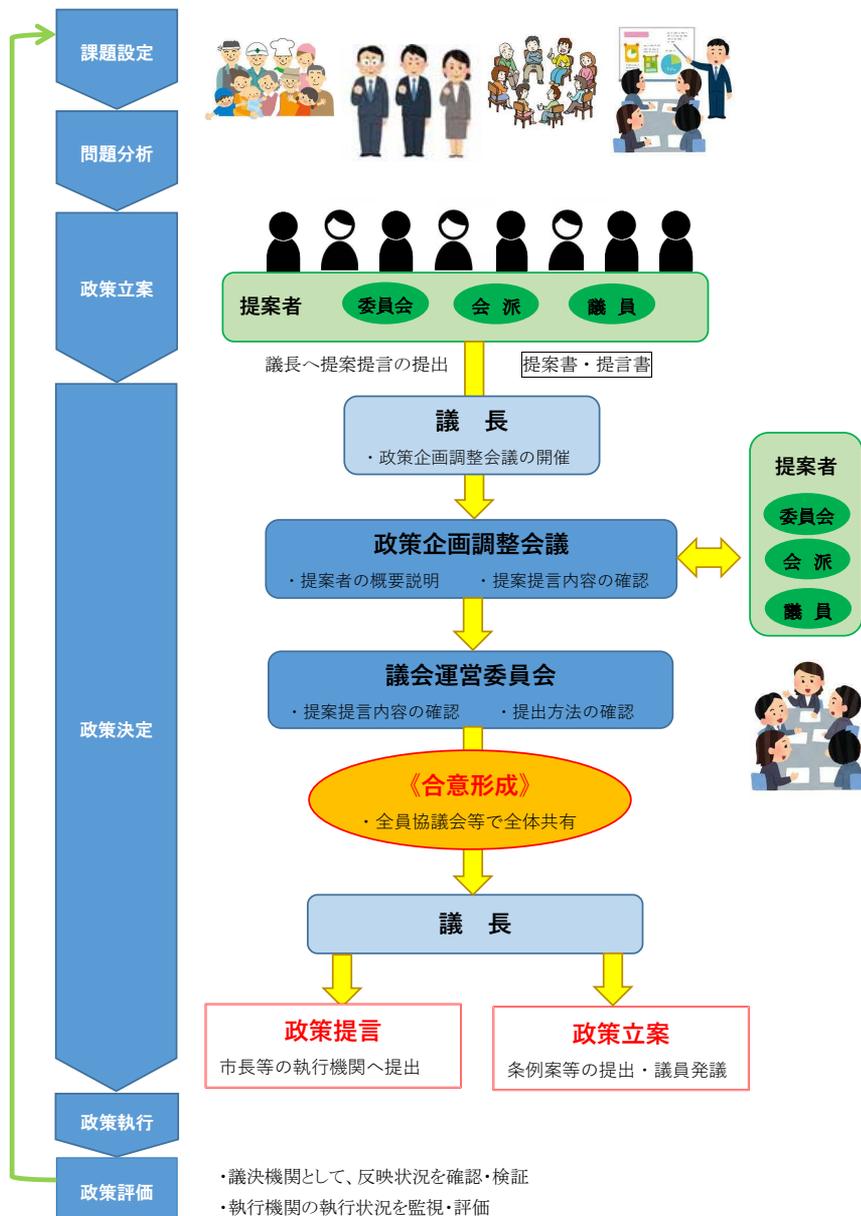
本来の議会の役割を果たすための仕掛けづくりです。





「登米市議会改革推進会議調査報告書」
(令和2年12月24日) より抜粋

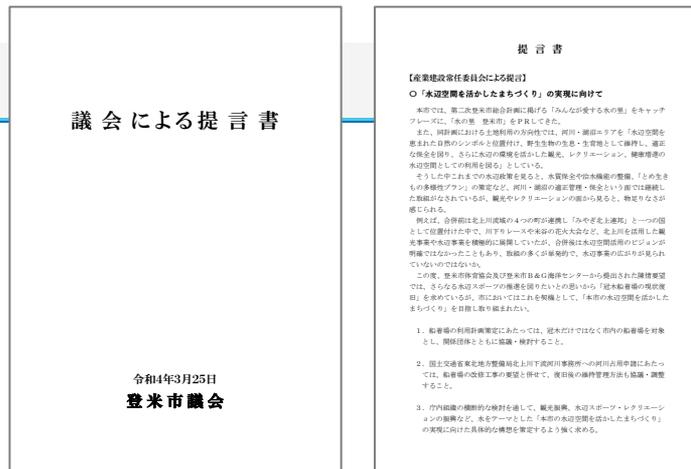
(参考) 政策形成機能の強化に向けて 政策提言・政策立案のフロー



常任委員会活動に基づく提言

常任委員会での所管事務調査、意見交換会等の活動を通じまとめた内容を、市長へ提言しています。

議会による提言書（令和4年3月25日）



提言書 【産業建設常任委員会による提言】 「水辺空間を活かしたまちづくり」の実現に向けて

令和4年3月25日、産業建設常任委員会でまとめた「水辺空間を活かしたまちづくり」の実現に向けた提言について、市長に提出しました。

- [議会による提言書 \(PDF : 158KB\)](#)

市の執行機関の事務執行を監視・評価し、議会としての議決責任・説明責任を果たすとともに、積極的に政策立案等を行うことを目的として、事務事業評価に取り組んでいます。

常任委員会の主体的な取り組みとして、所管事務調査と関連付け深掘り調査を行い、事務事業評価の結果と提言をとりまとめ、市長に政策提言しています。

令和2年度



● [令和2年度評価結果 \(PDF : 1,519KB\)](#)

令和元年度



● [令和元年度評価結果 \(PDF : 2,274KB\)](#)

議会による事務事業評価
評価結果と政策提言

令和2年12月18日
登米市議会

議会による事務事業評価 評価結果と政策提言

《 目 次 》

〈 事 業 〉	〈 評価結果頁 〉	〈 政策提言頁 〉
コミュニティFMの活用	4	16
敬老行事補助金交付事業	6	16

1. 議会による事務事業評価結果

老人

登米

ビジ

木工

事業名	コミュニティFMの活用 〔総務企画常任委員会〕		
委員会 評価	概ね適正である	理由	ラジオを通じて情報を伝え、より多くの情報の共有化を図り、災害時などにおける有効な情報手段として活用している。
今後の 方向性	改善	理由	登米市にとって唯一のラジオによる不特定多数への情報伝達手段であるが、単純に放送時間を成果指標として評価することは困難である。情報伝達手段としての効果の検証が必要である。また、聴取率向上と経営安定のための工夫、市との防災等の協議機関が必要である。

これまでの議会改革の取り組み

登米市議会では、市民にわかりやすい議会、開かれた議会など、時代に対応した議会にするため、議会改革推進会議等においてさまざまな課題が提起され、議論を重ねながら、常に議会改革に取り組んでいます。

時期	項目
平成17年12月定例会	議会中継の開始 インターネット環境を利用した議会ライブ中継および録画中継の開始
平成19年4月から	議長交際費執行状況（月別）をホームページ上で公表 平成19年度分から公表
平成19年6月から	政務活動（調査）費収支報告をホームページ上で公表 平成18年度分から公表
平成21年6月定例会	議会改革調査特別委員会の設置 発言席の設置 1問目を演壇から、2問目以降は、発言席からの発言
平成21年11月臨時会	議員提案により議員報酬の引き下げ 議長491,000円、副議長、425,000円、議員398,000円に減額
平成22年2月定例会	議員提案により費用弁償の引き下げ 費用弁償を1,000円に減額 議員提案により政務調査費の引き下げ 政務調査費を月額25,000円に減額
平成22年6月定例会	一般質問における議員発言残時間の表示 会議録検索システムの開始 ホームページから会議録の検索及び閲覧が可能

平成22年11月	議会基本条例策定委員会を開催（H23年9月まで5回開催） 委員構成：学識経験者1人、登米市行政関係団体等の構成員1人、公募による者2人、議会議員10人
平成23年1月17日～2月7日	登米市議会基本条例素案に対する市民意見の公募（3人提出）
平成23年1月18日、20日、21日	議会基本条例意見交換会を実施 9会場、5班体制、市民238名参加
平成23年1月26日	議会改革討論会の開催 テーマ「市民とともに歩む議会」 パネリスト、アドバイザー、コーディネーター、議員・市民130名参加
平成23年11月9日	議会基本条例策定委員会から「登米市議会基本条例(案)について」の提言書提出
平成23年12月定例会	議会基本条例の制定 平成23年12月21日に議員提出議案として上程し可決(平成24年4月1日施行) 協議または調整を行うための場を設置 全員協議会、会派代表者会議、正副委員長会議、広報広聴委員会、政策企画調整会議、議会改革推進会議 平成23年12月21日に議員提出議案として上程し可決 議会改革調査特別委員会の調査報告 平成23年12月14日に調査報告
平成24年6月から	政務活動（調査）費収支報告の公表部分の拡大 平成23年度分から支出項目まで拡大してホームページ上で公表
平成24年6月4日、5日	第1回意見交換会を実施 9会場、5班体制、91人参加

平成24年6月19日	議会改革推進会議を開催（25年2月まで13回開催）
平成24年12月3日、4日	第2回意見交換会を実施 9会場、5班体制、107人参加
平成25年1月10日	参考人を招致し議員定数について意見聴取 行政区長等10人出席
平成25年2月定例会	議員政治倫理条例の制定 平成25年2月5日に議員提出議案として上程し可決(平成25年4月29日施行) 議員定数を削減 平成25年4月の改選から定数30人を26人に削減 常任委員会の再編 平成25年4月の改選から常任委員会数を4から3に再編 議会改革推進会議の調査報告 平成25年3月8日に調査報告
平成25年6月定例会	議案及び付属資料の公開 傍聴者閲覧用の議案及び付属資料を設置し、ホームページに掲載
平成25年10月22日、23日、11月12日、13日	意見交換会を実施 21会場、5班体制、170人参加
平成25年11月29日	議場内大型ディスプレイの使用についての申し合わせ 表示できる資料の種類、数 使用申請手続き

平成25年12月定例会	議場に大型ディスプレイ設置 通常は議会中継を表示であるが、議員の質疑などを補完するための資料表示にも使用
平成26年7月15日、16日、23日、24日	意見交換会を実施 21会場、5班体制、207人参加
平成26年9月定例会	通年議会実施のため条例等の一部改正が可決（平成27年1月1日施行）
平成26年12月定例会	空き家等の適正管理に関する条例の制定 平成26年12月16日に議員提出議案として上程し可決（平成27年4月1日施行）
平成27年1月	通年議会の導入
平成27年2月定期議会	議会基本条例の一部改正（議決事件の追加） 「原子力発電施設に係る市及び市民の安全に関する協定等の締結」を追加
平成27年3月26日	議会基本条例検証結果の報告 議会基本条例の目的が達成されているかの検証作業（継続39、拡充13、改善4、実施21）
平成27年10月14日、15日	意見交換会を実施 9会場、5班体制、126人参加
平成27年10月	議会中継映像のハイビジョン化対応 老朽化した議場システムの一部更新を行うとともに、新たにフルHDカメラを導入し、議会中継映像をハイビジョン化に対応
平成28年6月	議会のICT化 「環境への配慮」、「情報共有の迅速化」などを目的に全議員へタブレット端末機を貸与 登米市議会タブレット端末機及び文書共有システム使用基準の施行 タブレット端末機の貸与(WindowsSurface)

平成28年7月	意見交換会を実施 9会場、5班体制、125人参加
平成29年2月定期議会	議会基本条例の一部改正（政務活動費のネット公開） 平成29年度分から政務活動費の証拠書類をホームページ上で公開することを追加
平成29年3月24日	議会基本条例検証結果の報告（2回目） 議会基本条例の目的が達成されているかの検証作業（継続36、拡充12、改善4、実施21）
平成29年10月	意見交換会を実施 9会場、5班体制、132人参加
平成29年12月	平成29年度登米市議会モニター7人を委嘱
平成30年2月	平成29年度登米市議会モニター1人を委嘱
平成30年2月26日	Facebookでの情報発信を開始
平成30年4月	各常任委員会毎に年間活動計画を作成
平成30年6月	政務活動費の証拠書類をホームページ上で公開 平成30年度登米市議会モニター8人を委嘱
平成30年8月21日、23日	議会による事務事業評価を実施
平成30年10月	意見交換会を実施H30テーマ「登米市の地域医療を考える」 9会場、5班体制、154人参加
平成30年12月4日	議会による事務事業評価に基づく政策提言
平成30年12月定期議会	議会基本条例の一部改正（議決事項の見直し、市重要計画に議会が関わるタイミングを明記）
平成31年1月招集議会	議場活用事業の取り組みとして、招集議会開会前に議場で佐沼小学校合唱隊と市民歌を斉唱

平成31年1月～3月	議場活用事業の取り組みとして、市内小学校を対象に議場見学、本会議体験、総合学習発表の場として議場を活用 宝江小学校6年生21名、南方小学校6年生36名、西郷小学校6年生16名
平成31年2月～3月	ワールド・カフェ方式で意見交換会を実施 市PTA連合会と教育民生常任委員会「登米市の学校未来像を考える」44名参加 議会モニターと議会運営委員会「親しみやすい登米市議会」15名参加
平成31年3月	議会基本条例の目的が達成されているかの検証作業を実施（継続33、拡充14、改善2、実施3）
平成31年4月	政策アドバイザー制度を制定
令和元年5月7日	議会改革推進会議調査報告書を議長へ提出 議会基本条例検証結果の報告（3回目）



資料編

3市の基礎データ比較（行政編①）

		奥州市	登米市	矢板市
住みよさランキング				
	総合	413	729	475
	安心度	132	245	306
	利便度	297	523	272
	快適度	693	777	625
	富裕度	533	586	442
人口・世帯				
	人口	114,644	77,392	31,719
	人口増減率（3年前比）	-3.54%	-4.57%	-4.17%
	自然増減率（//）	-2.68%	-2.91%	-2.24%
	社会増減率（//）	-0.86%	-1.65%	-1.93%
	年少人口比率（%）	11.05	10.88	10.42
	生産人口比率（%）	54.02	53.92	56.89
	老年人口比率（%）	34.93	35.20	32.69
	後期高齢者比率（%）	18.81	17.76	15.45
就業人口比率（%）				
	1次産業	14.3	12.4	7.2
	2次産業	28.5	29.0	33.5
	3次産業	56.0	52.7	58.3
国勢調査・将来推計人口				
	20年	112,937	76,037	31,165
	25年	106,623	72,216	29,240
	35年	92,975	62,595	24,749
	45年	78,750	52,047	20,064
	20年→40年減少比	69.7%	68.4%	64.4%

		奥州市	登米市	矢板市
財政・行政				
	歳出総額	728.0億円	534.7億円	176.0億円
	同・一人当たり	63.5万円	69.1万円	55.5万円
	地方税収額	134.0億円	77.5億円	45.5億円
	同・増減率（対前）	0.4%	0.3%	0.5%
	同・一人当たり	11.7万円	10.0万円	14.3万円
	経常収支比率	96.4%	93.9%	89.4%
	実質公債費比率	16.2%	7.2%	9.1%
	将来負担比率	73.9%	83.1%	52.0%
	財政力指数	0.44	0.37	0.68
	自主財源比率	27.0%	24.4%	35.1%
交付税依存度	26.8%	30.3%	12.6%	
地方債残高（一人当たり）	56.2万円	66.9万円	39.7万円	
ラスパイレス	98.5	93.4	99.6	
事業所				
	事業所数（民営）	5,510	4,065	1,391
	従業者数（民営）	46,190	29,976	13,666
	従業者100人以上事業所数	36	19	15
産業				
	農業産出額	228.4億円	324.7億円	48.4億円
	製造品出荷額	3388.4億円	1259.4億円	525.0億円
	卸売業販売額	889.1億円	437.1億円	95.8億円
	小売業販売額	1306.4億円	918.6億円	360.1億円
	同・一人当たり販売額	107.7万円	110.9万円	106.2万円

3市の基礎データ比較（行政編②）

		奥州市	登米市	矢板市
所得・住宅・自動車				
	一人当たり所得	272.4万円	266.9万円	288.3万円
	空き家率	14.9%	11.5%	20.9%
	通勤時間	20.1分	21.8分	24.9分
	住宅地平均地価（m2）	1.83万円	1.02万円	2.02万円
	商業地平均地価（m2）	2.75万円	1.95万円	3.15万円
医療・福祉・環境・安全				
	1万人当たり病床数	146.2床	94.9床	225.6床
	1万人当たり医師数	17.8人	11.8人	19.7人
子育て関連				
	子ども医療費助成			
	通院	18歳年度末まで	18歳年度末まで	18歳年度末まで
	入院	//	//	//
通勤・通学				
	昼間人口（人）	115,443	77,559	32,048
	昼夜間人口比率	96.67%	94.63%	96.08%
	当地に常住（人）	66,527	45,071	18,016
	通勤・通学先が自市	81.0%	74.8%	51.1%
	当地に通勤・通学（人）	62,601	40,717	16,628
	常住地が自市	86.0%	82.8%	55.4%



奥州市



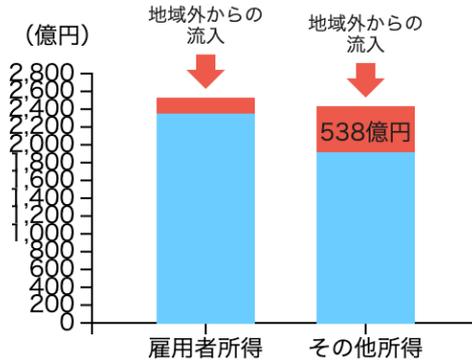
地域経済循環率
85.0%

地域経済循環図 2018年

指定地域：岩手県奥州市

所得への分配
4,203

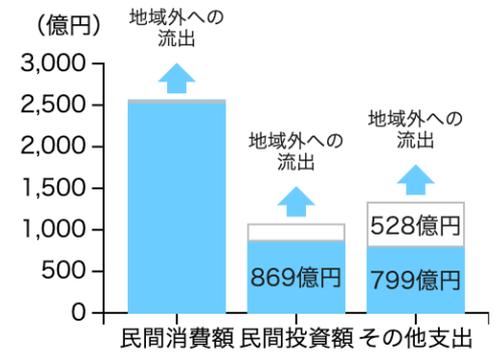
分配（所得）



詳細を見る

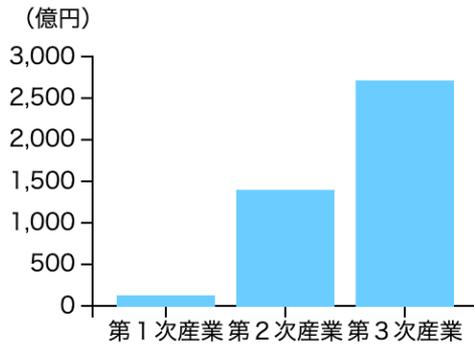
所得からの支出
4,942

支出



詳細を見る

生産（付加価値額）

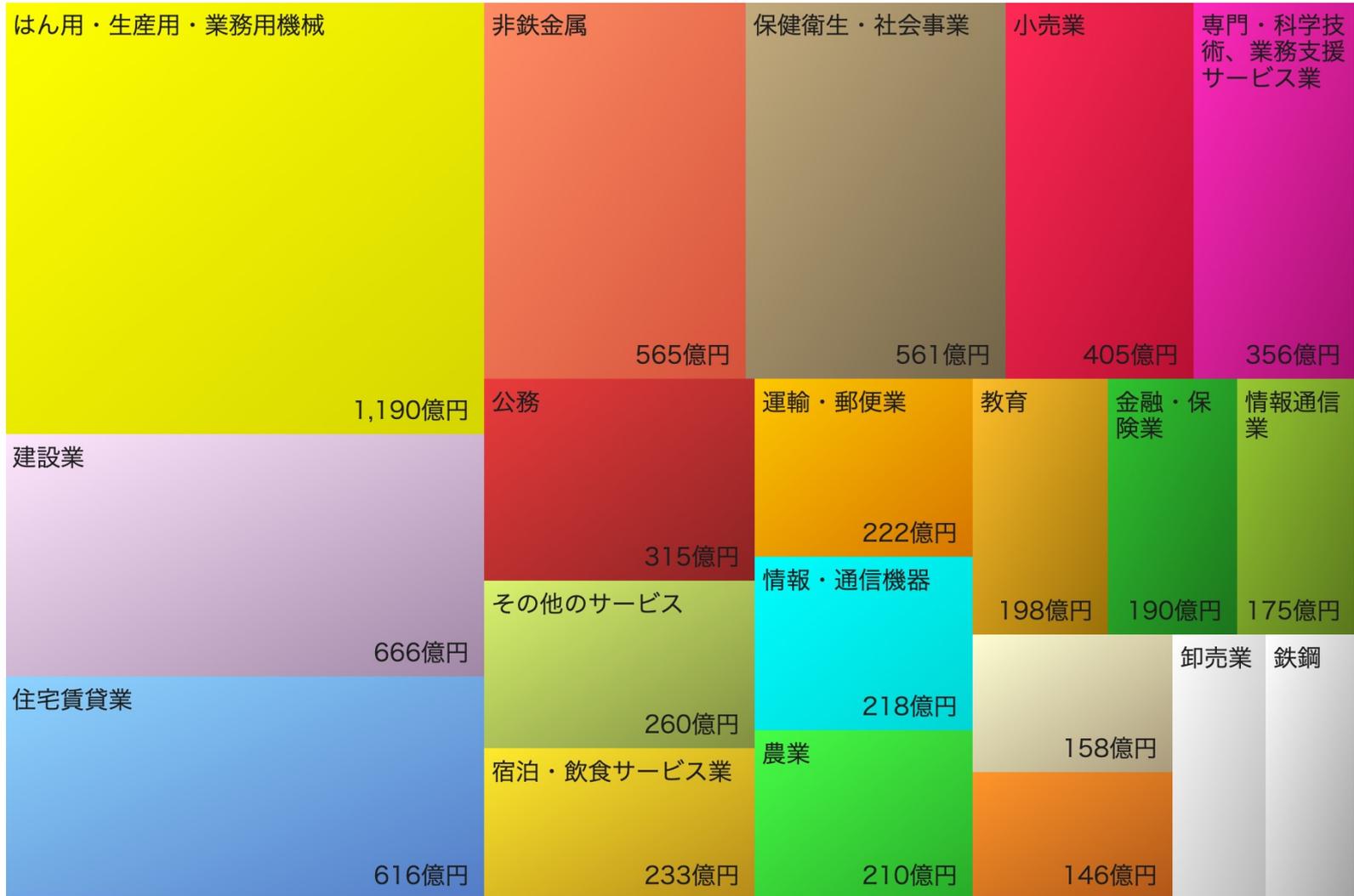


詳細を見る

支出による生産への還流
4,203



奥州市





奥州市概要-Wikipediaより-

奥州市（おうしゅうし）は、[東北地方](#)の中部、[岩手県](#)の内陸南部に位置する県内第二の人口を擁する市。岩手県の県南地方を管轄する出先機関である[県南広域振興局](#)の所在地。2006年に[水沢市](#)・[江刺市](#)、[胆沢郡前沢町](#)・[胆沢町](#)・[衣川村](#)が[新設合併](#)して誕生した。

奥州市は、西側を[奥羽山脈](#)、東側を[北上山地](#)で挟まれる[北上盆地](#)の南部に位置する。北は[花巻市](#)・[北上市](#)・[西和賀町](#)・[金ケ崎町](#)、南は[一関市](#)・[平泉町](#)、東は[遠野市](#)・[住田町](#)、西は[秋田県東成瀬村](#)に接している。

奥州市最高峰の[焼石岳](#)を主峰とする西部地域の焼石連峰は、ブナの原生林が多く残されている。また、北上川東側には、北上山地につながる田園地帯が広がり、東端部には、[種山高原](#)、阿原山高原が連なっており、地域全域が緑のあふれる豊かな自然に恵まれている。

人口は約11万人で、県内では[盛岡市](#)について第2位の人口規模となる。総面積は993.35平方キロメートルと広大で、東京都（2188.68平方キロメートル）の2分の1弱の広さがあり、県内では[宮古市](#)、一関市について第3位の面積を有する。

土地の利用状況は、総面積のうち、田が17.7%、畑が4.8%、宅地が3.5%、山林が44.1%で、農地の割合が高く、稲作を中心とした複合型農業により、県内屈指の農業地帯となっている。肥沃な大地からは[前沢牛](#)、[江刺りんご](#)、江刺金札米などの有名な農産物を生産している。また、交通の利便性の良さを背景に県内でも屈指の商業集積が進み、工業団地等が整備され、農・工・商のバランスがとれた産業基盤が特徴である。

胆江地方は古代東北地方の歴史の中心地であり、[角塚古墳](#)・[胆沢城跡](#)・衣川遺跡群など数多くの史跡が残されている。幕末から近現代にかけては水沢地区から多くの偉人を輩出しており、特に[高野長英](#)・[後藤新平](#)・[斎藤実](#)は水沢三偉人と呼ばれ、それぞれ資料館や生家など史跡も多く残されている。[奥州藤原氏](#)に起源を持つ[南部鉄器](#)、[岩谷堂筆筒](#)、[秀衡塗](#)などの伝統産業や、[日高火防祭](#)などの祭典も多く、基幹産業の事業展開が図られている。

旧[奥州街道](#)および[東北本線](#)は、扇端沿いで河岸段丘上の水沢地区の中心地域を南北に通っているが、段丘崖下の段丘面を通る[国道4号](#)沿いには新しい市街地が形成され、大規模な[ロードサイド店舗](#)の進出が見られる。[東北新幹線](#)・[水沢江刺駅](#)は、その対岸（北上川東岸）に位置している。



●原始

およそ500万年前、奥州市周辺が仙台から続く入り江になっていた頃の時代は、マエサワクジラなどの海棲哺乳類が棲んでいた。

約3万5000年前には、斜軸[尖頭器](#)を出土した柳沢館遺跡（水沢）などが存在し、[旧石器時代](#)から人が住んでいたと考えられる。遺跡は中期旧石器時代で、片刃礫器、削器、斜軸尖頭形剥片などの石器があるが、後続する後期旧石器時代の遺跡は未発見である。

[縄文時代](#)の東北地方（特に北部）は、後世と比べ気候温暖であった。当時の東北地方はコナラ・クリなどの落葉広葉樹林に広く覆われ、海岸線は平野の中まで深く入り組んで、採集生活に適した環境を作り出した。なお縄文時代の文化は「東高西低」といわれ、西日本の人口密度が希薄だったのに対し、東北地方と関東地方は、日本列島の人口の過半が集中する、縄文文化の中心地であった。縄文時代の遺跡として[大清水上遺跡](#)などがある。

[弥生時代](#)の遺跡としては清水下遺跡などから[石包丁](#)が発見され、近くから水田の跡も見つかったことから当地方でも古くから[稲作](#)が行われていた。

●古代

この地方は古代、[大和朝廷](#)から[日高見国](#)と呼ばれ、[日本書紀](#)には「日高見の国は土地が広大で肥沃である」と記されている。平安時代初期に編纂された[続日本紀](#)によると「水陸万傾の地」と記されており、古くから拓けた土地であった。

東北地方が[大和王権](#)に服属せず独立を保っていた地方王国の時代から、[仙台平野](#)南部に次ぐ東北地方住民の中心地の一つであった。

当時、東北地方の人々は、大和王権から[蝦夷](#)と呼ばれ恐れられていた。

5世紀後半～6世紀初、日本列島北端に位置する[前方後円墳](#)、[角塚古墳](#)が造営された。当地には、古代から、豊かな国を支配する強大な権力を持った豪族がいたことを伺うことができる。

[729年](#)（天平元年）、東北地方初の寺院として、[行基](#)が黒石に東光山薬師寺（後の[黒石寺](#)）を建立する。

5世紀前後、仙台平野を中心とする東北地方南部が大和王権に服属すると、大和王権は胆沢盆地を中心とする東北地方中南部の蝦夷と対立した。

[780年](#)（宝亀11年）[俘囚](#)長、[伊治皆麻呂](#)が東北地方の長官らを殺害して反乱を起こすと、蝦夷と朝廷の間にいわゆる「[三十八年戦争](#)」が始まった。このときも、[胆沢](#)・[江刺](#)は蝦夷側の根拠地であった。[789年](#)（延暦8年）蝦夷の軍事指導者・[アテルイ](#)率いる蝦夷軍は徹底抗戦し、[巢伏の戦い](#)で朝廷軍を撃退した。しかし[802年](#)（延暦21年）、[征夷大將軍](#)・[坂上田村麻呂](#)に降伏し、「三十八年戦争」は[桓武天皇](#)の勝利で幕を閉じた。戦後、朝廷は[国府多賀城](#)から[鎮守府](#)を[胆沢城](#)へ移した。

平安時代後期、[衣川](#)を拠点とする[豪族](#)であった[安倍氏](#)が[俘囚](#)長として[奥六郡](#)を支配し、近辺では[国司](#)よりもはるかに強力な勢力を持つに至った。しかし[前九年の役](#)で、[出羽](#)の俘囚長・[清原氏](#)の援軍を得た[源頼義](#)・[義家](#)親子により滅ぼされた。衣川の地は、都人もあこがれた[歌枕](#)としても有名で、多くの歌人によって歌に詠まれた。

平安時代末期、前九年の役および[後三年の役](#)を経て、清原清衡（[藤原清衡](#)）が実父の姓に復して藤原氏を名乗り、根拠地を[江刺郡豊田館](#)から[磐井郡平泉](#)（現在の[平泉町](#)）に移して独自の地方政権を打ち立て、政治文化の中心都市の建設に着手した。

平泉の市街地は衣川の北側にも広がっており、衣川をはさんだ南の政治都市と北の産業・商業都市が融合して機能する複合都市を形成していた。衣川には[藤原基成](#)と[源義経](#)の居所である[衣川館](#)や、[中尊寺](#)の子院などが並び、一大産業・商業地があった。前沢の[白鳥館遺跡](#)は手工業生産が行なわれていた川湊として栄えた。また、清衡が平泉に居館を移した後も、江刺では益沢院で[中尊寺](#)に奉納された金銀字交書一切経が書写されるなど、清衡の本拠地として重要な役割をもち続けた。

安倍氏の血を引く[奥州藤原氏](#)は、約100年間に渡って東北全域を支配した。しかし四代目当主・[藤原泰衡](#)のとき、[源義経](#)を匿ったことを口実に[源頼朝](#)の侵略を受けて滅亡した。



日本列島北端に位置する[角塚古墳](#)



[胆沢城跡](#)



[長者ヶ原廃寺跡](#)

●中世

鎌倉時代から室町時代にかけて頼朝から奥州総奉行に任じられた葛西清重を祖とする葛西氏が当地を治めた。初代清重は奥州藤原氏の要である胆沢郡、磐井郡と牡鹿郡を与えられ、平泉ではなく石巻城に居を構えた。築城年代・築城者は不明だが、現地の伝承では、葛西氏家臣の蜂谷氏・佐々木氏・柏山氏などが水沢城を築城している。水沢城は葛西氏の胆沢平野支配の拠点の一つであったと考えられている。また、江刺郡には幕府御家人・千葉頼胤の三男である胤道が配され、岩谷堂城を居城として江刺氏を名乗り、江刺氏配下の人首氏が人首城を築城している。

1349年（貞和4年）無底良韶が黒石に正法寺を建立。奥羽二州（東北地方）における曹洞宗の本寺・日本第三の本山で、東北地方における曹洞宗の中心寺院として発展。かつては東日本各地に末寺が508ヶ寺や1200ヶ寺あったと伝えられている。

戦国時代末期になると、葛西氏は領土を胆沢郡、磐井郡、牡鹿郡から、登米郡、本吉郡、江刺郡、気仙郡にまで拡大した。その一方で南部で隣接する大崎氏と衝突するようになった。このため大崎氏を挟み合う位置関係にある戦国大名、伊達氏と同盟し、伊達氏から当主を受け入れるなど、伊達氏と密接な関係を築いた。

伊達政宗の頃になると、葛西領は「伊達の馬打ち」と呼ばれる伊達氏の準領土となった。伊達氏は葛西氏の軍事指揮権を掌握したが、徴税権は葛西氏が握った。

伊達政宗が豊臣秀吉に屈服し、秀吉が奥州仕置によって葛西氏を滅亡させると、秀吉は葛西領を家臣、木村吉清に与えた。これに不満を抱いた伊達政宗は、旧葛西領および旧大崎領で「葛西大崎一揆」を起こさせた。しかし政宗の陰謀は秀吉に露見する。秀吉から一揆鎮圧の命令を受けた政宗は木村吉清を一揆勢から救出し、自ら一揆を鎮圧した。

戦後、秀吉は政宗から伊達郡などの先祖ゆかりの地や政宗が征服した会津地方を奪い取り、政宗に旧葛西領（現・岩手県南部）と旧大崎領（現・宮城県）を与えた。政宗は居城・岩出山城を築き、新しい領土の統治に当たった。こうして奥州市一帯は伊達領の一部となった。

豊臣秀吉が死ぬと伊達政宗は徳川家康の天下取りに協力し、1600年（慶長5年）の関ヶ原の戦いを経て翌年政宗は居城・仙台城と城下町を築いた。ここに仙台藩が誕生し、奥州市一帯は仙台領の一部となった。



正法寺

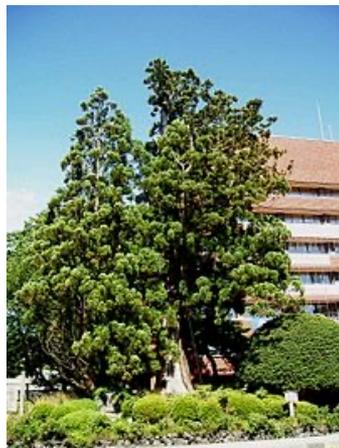
●近世

仙台領は現在の宮城県と福島県の一部、[岩手県](#)南部（[北上市](#)まで）となり、伊達氏家老には各領地が与えられ、市内には[水沢城](#)（[要害](#)）、[岩谷堂城](#)（[要害](#)）、[人首城](#)（[要害](#)）、[前沢城](#)（[所](#)）がおかれた。

[水沢](#)には代官所が置かれ領主も転々と変わり、[寛永6年](#)（[1629年](#)）[留守宗利](#)が入城すると近世城下町・水沢の原型が形成され、以後仙台藩[一門三席留守氏](#)の支配が[幕末](#)まで230余年間続く。なお、宗利は父[留守政景](#)（政宗の叔父）の代から「伊達氏」を名乗っていたため「[水沢伊達氏](#)」とも呼ばれる。水沢は[奥州街道](#)が南北を貫き、[仙北街道](#)（手倉街道）と[盛街道](#)が交差する交通の要所であったため[宿場町](#)として栄え、商人の町として[町人文化](#)も栄えた。

岩谷堂は仙台藩北辺の要害として、伊達家の重臣が治めた城下町として整備され、北上川の舟運や陸路交通の要衝地ということもあり、[問屋町](#)や馬市が開かれ栄えた。岩谷堂城は幾たびも領主が変わったが、[慶長15年](#)（[1610年](#)）岩城隆道が伊達家の家臣に取り立てられ[伊達政隆](#)と改名、岩谷堂の領主となり以後仙台藩[一門六席](#)「[岩谷堂伊達家](#)」の時代が幕末まで続く。

[1612年](#)（[慶長17年](#)）[キリシタン](#)である[後藤寿庵](#)は、見分村（現在の水沢福原）に千二百石を領した。彼は自分の家臣や領民をキリシタンに帰依させ、見分の知名をキリストの福音に満ちた地にしようという心から福原に変え、福原が東北地方のキリシタン布教の拠点となる。1623年（[元和9年](#)）にかけ、私財を投じて[胆沢川](#)の水を引く用水堰の開削に尽力したが、幕府による[禁教令](#)により逃亡。遺志を継いだ地域住民により寿安堰が完成。胆沢平野が穀倉地帯となる基盤をつくる。



[水沢城](#)跡の姥杉



[後藤寿庵](#)廟（[寿庵](#)の館跡）

●近代

[戊辰戦争](#)では、仙台藩は[奥羽越列藩同盟](#)（北部政府）をつくって[明治新政府](#)と戦った。仙台藩の一門である水沢伊達氏も白河の役に出陣したが、石切山などで敗れ、1869年（[慶応4年](#)/[明治2年](#)）6月12日に星隊長ら17人の死者を出した。新朝廷を創設する動きまであったが、敗戦により「東武朝廷」の誕生は成らなかった。

同年、伊達氏家臣は失領となり、胆沢郡は胆沢県、江刺郡には江刺県が開設された。胆沢県は当初仮県庁を前沢城に置かれ、後に水沢城が[胆沢県](#)庁となり、江刺県は岩谷堂城に県庁を置き、後に[閉伊郡](#)横田村へ移動となる。

さらに水沢伊達氏家中は[陪臣](#)であるからとして帰農を命じられ、仙台藩の[士族](#)籍を得られなかった。このため、[士分](#)を保つために家中一同そろって[北海道](#)開拓に参加すべきとの意見が出されたが、邦寧は病身のため極寒の気候に耐えられないであろうとの判断から仙台に残留し、吉田元俣・坂本平九郎が家中200名を率いて[石狩国札幌郡](#)に移住した。この時、水沢伊達氏家中によって拓かれたのが平岸村（現・[札幌市豊平区平岸](#)）である。

[1876年](#)（明治9年）[廃藩置県](#)の統廃合が続き、[一関県](#)（県庁は現在の一関市）、[水沢県](#)（水沢県の[県庁](#)は当初は水沢に置かれる予定であったが、現在の宮城県登米市に置かれた）、[磐井県](#)（県庁は現在の一関市）となり、[岩手県](#)（県庁は現在の盛岡市）に編入となる。

[1878年](#)（明治11年）胆沢・江刺[郡役所](#)が塩竈村（現在の水沢）に置かれる。

[1889年](#)（明治22年）[町村制](#)が施行され、[胆沢郡](#)には水沢町や衣川村等13町村、[江刺郡](#)には岩谷堂町等13町村が成立。

[1890年](#)（明治23年）薩長藩閥政治に反対し、国会を開き、国民の権利と議会政治の実現を求める[自由民権運動](#)は岩手県でも起こり、水沢には旧仙台藩士族の[下飯坂権三郎](#)を中心として立成社が結成された。岩手県成立後も、旧仙台領である胆沢、江刺、西磐井、東磐井、気仙の県南五郡は地形、産業、歴史上、南部領とは異なるとして、住民により県南五郡を宮城県へ編入する分県運動が自由民権運動とともに起きた。分県運動は署名運動がなされ、宮城・岩手両県の政治家により、衆議院、貴族院を通過したが、県南五郡を岩手県から離せば、県の財政基盤が崩れる点から、岩手県側から強い反対にあい、実行されなかった。

同年、[日本鉄道](#)水沢駅が開設される（現：JR[東北本線](#)）当初北上川東岸にある岩谷堂に敷設される予定だったが、住民の反対により同線が西岸側にあるルートへ変更となり、水沢への物流機能集積が始まる。

[1899年](#)（明治32年）水沢に緯度観測所（現・[国立天文台水沢VLBI観測所](#)）が開設され、緯度観測所初代所長の[木村栄](#)博士が[Z項](#)を発見した功績により国際極運動観測事業の中央局となる。

●戦後-現代

[1954年](#)（昭和29年）胆沢郡[水沢町](#)、[姉体村](#)、[真城村](#)、[佐倉河村](#)、江刺郡[黒石村](#)、[羽田村](#)が合併し、水沢市となる。

[1955年](#)（昭和30年）[古城村](#)・[白山村](#)および[東磐井郡生母村](#)と合併し、新制の前沢町が発足。

[1955年](#)（昭和30年）江刺郡[岩谷堂町](#)・[稲瀬村](#)・[愛宕村](#)・[田原村](#)・[広瀬村](#)・[梁川村](#)・[玉里村](#)・[藤里村](#)・[米里村](#)・[伊手村](#)が合併し、江刺町となる。

[1958年](#)（昭和33年）江刺町が[市制](#)施行、江刺市となる。

[1967年](#)（昭和42年）胆沢村が町制施行し、胆沢町となる。

[1977年](#)（昭和50年）[東北自動車道](#)（一関～盛岡間）が完成し、水沢インターチェンジが供用開始。

[1985年](#)（昭和60年）[東北新幹線水沢江刺駅](#)開業

[2006年](#)（平成18年）[水沢市](#)・[江刺市](#)、[胆沢郡前沢町](#)・[胆沢町](#)・[衣川村](#)が合併し、奥州市が誕生する。これらの2市2町1村は、2000年[国勢調査](#)に基づく[水沢都市圏](#)（[都市雇用圏](#)-10%通勤圏）を構成する[地方公共団体](#)である。

同年県の[出先機関](#)である一関、花巻、北上、遠野、千厩の各振興局を水沢地方振興局に統合し、[県南広域振興局](#)が設置される。

[2008年](#)（平成20年）[岩手・宮城内陸地震](#)が発生し、最大[震度](#)6強を観測。

[2011年](#)（平成23年）[東日本大震災](#)が発生し、最大震度6弱を観測。

[2022年](#)（令和4年）2月27日告示の奥州市議会議員選挙において定数を上回る届出がなかった為、立候補者全員に対し奥州市では初の[無投票当選](#)が成立^{[3][4]}。



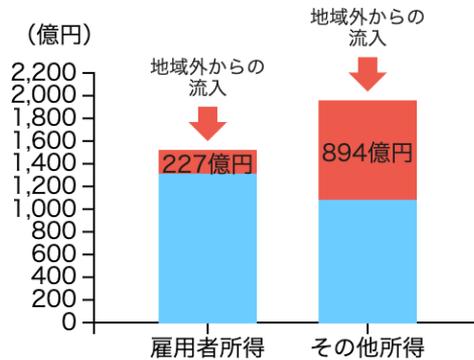
登米市

地域経済循環率
67.7%

地域経済循環図 2018年

指定地域：宮城県登米市

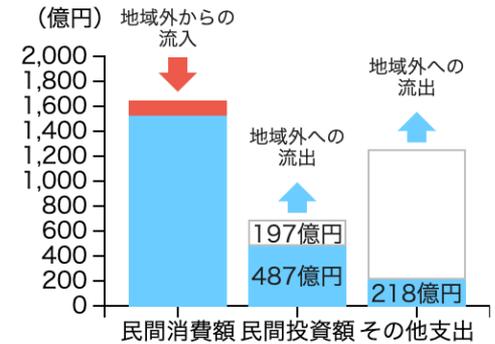
分配（所得）



詳細を見る

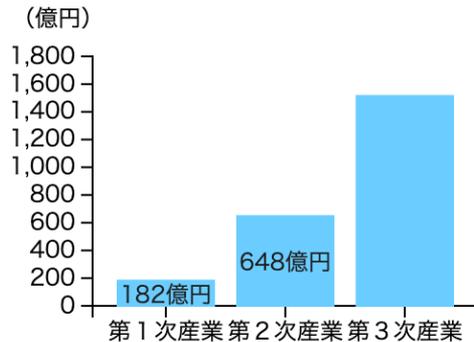
所得からの支出
3,465

支出



詳細を見る

生産（付加価値額）



詳細を見る

支出による生産への還流
2,344

所得への分配
2,344



登米市





概要

登米市（とめし）は、[宮城県](#)の北部に位置する[市](#)である。[岩手県](#)との県境にあり、[登米郡](#)8町と[本吉郡津山町](#)の合併によって[2005年](#)（[平成17年](#)）に誕生した[市](#)。

地理

宮城県の北部、[仙台市](#)から北方へ70キロメートルに位置する。宮城県[栗原市](#)と宮城県[本吉郡南三陸町](#)の間にあり、[岩手県一関市](#)と境を接する。

市内中心部は、市役所がある[迫町佐沼](#)地区。

市名の読みは登米市（とめし）であるが、市内の[登米町](#)は（とよままち）と読む。古くから米の名産地として知られる。また肉牛生産者も多く、「[仙台牛](#)」の産地としても有名である。

市内はほぼ平野地で、広大な平野に田園地帯が広がっている。

水郷地帯でもあり、冬季には日本一の越冬地として、[伊豆沼](#)、内沼、市内中心部を流れる迫川などに多くの渡り鳥が飛来することで知られている。

市内東部は[北上山地](#)に接しており、林業が行われている。[森林セラピー基地](#)に認定されており、[NHK](#)の[連続テレビ小説](#)の作品である「[おかえりモネ](#)」でも紹介された。

漫画家の[石ノ森章太郎](#)氏は、登米市中田町石森（いしのもり）の出身であり、今でも生家が残っている。



登米市歴史-Wikipediaより-

- [奈良時代](#)以前からこの地には「遠山（とおやま）村」という村があり、これが「登米（とよま）」の語源である。[蝦夷](#)の抵抗が根強い地域であった。
- [文治](#)5年（[1189年](#)）、[奥州藤原氏](#)滅亡。[葛西三郎清重](#)が現在の[岩手県](#)南から[宮城県](#)[北上川](#)流域を所領に封ぜられる。
- [鎌倉](#)から[戦国時代](#)には[葛西氏](#)一族がこの地域を領有。登米[寺池城](#)に本拠をかまえる。
- 戦国時代末期、葛西氏は[伊達氏](#)から跡取り養子を迎えるなど伊達氏と密接な関係をもった。伊達氏は葛西氏の軍事指揮権を掌握したが、徴税権は葛西氏が保持した。
- [天正](#)7年（[1579年](#)）、北上川氾濫による洪水で、登米、佐沼にて人馬多く死す^[4]。
- 天正18年（[1590年](#)）、豊臣秀吉の[奥州仕置](#)により葛西氏が改易され、秀吉の家臣の[木村吉清](#)が新領主となった。
- 天正18年（1590年）、葛西氏・[大崎氏](#)の旧臣らが木村吉清親子の支配に抗し、[葛西大崎一揆](#)を起こした。この一揆を扇動した人物が政宗である。一揆勢は木村親子の籠もる[佐沼城](#)を包囲。政宗がこの一揆を扇動していたことが発覚し、窮地に立たされた政宗は、秀吉の命令によりこの一揆を鎮圧した。その後、秀吉は政宗から先祖ゆかりの土地である[伊達郡](#)などを没収し、その代わりに政宗に旧葛西領と旧大崎領を与えた。これにより、現在の登米市の領域は伊達領の一部となった（居城は[岩出山城](#)）。
- [慶長](#)6年（[1601年](#)）、[仙台藩](#)の誕生により、現在の登米市は仙台藩の一部となった。政宗の部将で[白石宗実](#)の子・[白石宗直](#)は政宗から「伊達」の姓を賜り、寺池城（旧・[登米町](#)（とよままち））に入って[登米伊達氏](#)の祖となった。
- 慶長11年（[1606年](#)）、[亙理定宗](#)が政宗から「伊達」の姓を賜り伊達一門になったことにより、政宗の[庶子](#)・[宗根](#)が亙理家を相続し、現在の栗原市の[高清水城](#)（旧・[高清水町](#)）城主となった（高清水亙理氏）。のち[亙理宗根](#)は現在の登米市の佐沼城（旧・[迫町](#)）へ居城を移し、「佐沼亙理氏」の祖となった。
- 慶長13年（[1608年](#)）新田開発の一環として、北上川の氾濫を防ぐための相模土手が完成。
- [寛文](#)5年（[1665年](#)）寺池館主[伊達宗倫](#)と涌谷館主[伊達宗重](#)との間に所領争い有り。後の寛文事件（[伊達騒動](#)）の火種となる。
- [慶応](#)4年/[明治](#)元年-明治2年（[1868年-1869年](#)）に起きた[戊辰戦争](#)の敗北による仙台藩の大幅減封（62万石→28万石）により、登米郡は[土浦藩](#)取締地を経て[涌谷県](#)となる（のち[登米県](#)→[一関県](#)→[水沢県](#)→[磐井県](#)と変遷）。
- [1876年](#)（明治9年）宮城県に編入。
- [1894年](#)（明治27年）[日本鉄道](#)の駅として[新田駅](#)が開業。
- [1921年](#)[仙北鉄道](#)開通。

昭和

[1932年](#)（昭和7年）[新迫川開削着工](#)

[1938年](#)（昭和13年）[山吉田水門完成](#)

[1939年](#)（昭和14年）新迫川完成

[1945年](#)北上川に北上大橋がかかる。

[1947年](#)（昭和22年）9月[カスリーン台風](#)、[1948年](#)（昭和23年）9月[アイオン台風](#)により、迫町付近、中田町付近、若柳町付近などが水害に襲われる⁴。

[1968年](#)仙北鉄道登米線廃止。

[1978年](#)（昭和53年）6月[宮城県沖地震](#)により、北上川に架かる当時の東和町錦織と中田町桜場を結ぶ[国道346号](#)の錦桜橋の橋げたが落下した。

[1988年](#)（昭和63年）7月[道の駅津山](#)開駅

平成

[1994年](#)（平成6年）12月[ジャスコ](#)南方店開店（2007年9月閉店）

[1998年](#)（平成11年）12月[道の駅米山](#)開駅

[2003年](#)（平成15年）8月[道の駅林林館](#)開駅

[2005年](#)（平成17年）3月[道の駅みなみかた](#)開駅⁴

2005年（平成17年）[4月1日登米郡](#)8町（[迫町](#)、[登米町](#)、[南方町](#)、[東和町](#)、[中田町](#)、[豊里町](#)、[米山町](#)、[石越町](#)）と[本吉郡津山町](#)が合併。市名は「登米」の語源である「とよま」ではなく、「登米（とめ）郡」の郡名からとって「登米（とめ）市」となった。これにより、登米郡は消滅。

[2007年](#)（平成19年）6月[三陸縦貫自動車道桃生津山インターチェンジ](#)開通

2007年（平成19年）10月[イオンスーパーセンター](#)佐沼店開店、[旧北上川](#)河川敷に[豊里水辺の公園](#)が開園

[2009年](#)（平成21年）3月三陸縦貫自動車道[登米インターチェンジ](#)開通

[2010年](#)（平成22年）3月三陸縦貫自動車道[登米東和インターチェンジ](#)開通、豊里総合支所・豊里公民館開所
6月豊里・津山[渡船](#)を廃止

[2011年](#)（平成23年）3月[東日本大震災](#)（[東北地方太平洋沖地震](#)）により、被害を受けた⁴。

[2013年](#)（平成25年）10月8日登米市豊里町運動公園を会場に、宮城県シニアスポーツ大会が開催。

令和

- ・ 2019年（令和元年）10月台風19号により市内で多くの被害が出た（[令和元年東日本台風](#)）
- ・ 2021年（令和3年）5月～10月宮城県登米市と[気仙沼市](#)を舞台にした[NHK連続テレビ小説『おかえりモネ』](#)が放映される。
- ・ 2021年（令和3年）12月17日[みやぎ県北高速幹線道路](#)全線開通（市内全事業完成）
- ・ 2022年（令和4年）3月16日福島県沖で起きた地震で、市内で震度6強（最大震度）を記録。市内各地で被害が起きる。



行政

市内[迫町](#)佐沼字中江にある旧迫町役場を登米市役所本庁舎兼迫総合支所とし、他の旧町の役場を総合支所として利用している。

市内迫町佐沼地区には登米市地方を管轄する国・県の出先機関が多く立地しており、宮城県の登米合同庁舎が置かれている。

ただし[仙台法務局](#)登米支局及び[仙台地方検察庁](#)登米支部、[登米区検察庁](#)は登米町寺池地区に立地している。

主な行政課題としては、市内人口の多くを占める高齢者対策、[登米市立登米市民病院](#)に象徴される医療対策、産業の活性化策及び観光の振興策がある。



矢板市

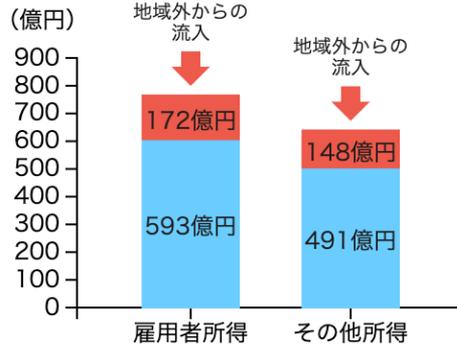


地域経済循環率
77.2%

地域経済循環図 2018年

指定地域：栃木県矢板市

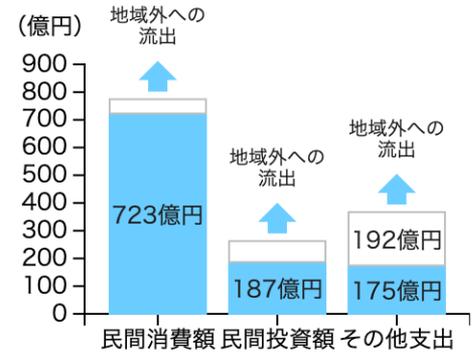
分配（所得）



詳細を見る

所得からの支出
1,404

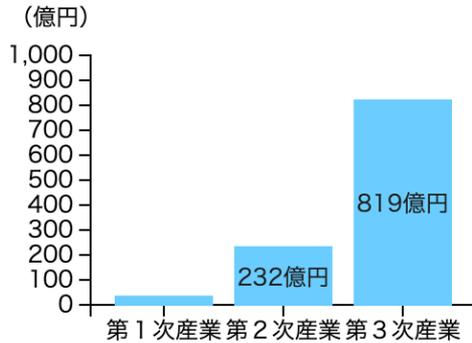
支出



詳細を見る

所得への分配
1,084

生産（付加価値額）



詳細を見る

支出による生産への還流
1,084



矢板市

